

古き者と新しき者が古くも新しい作品に挑む

短編演劇集

# 温故創新

2023.11.18-19 @ あそ VIVA! 劇場



# 鉄と布と型

演劇ユニット まつよい

作 久坂葉子



人間は哀れ  
心までは裸になれない  
ただの人間、それとして  
大切な人を愛せないなんて

人間  
心  
芸術  
真

昭和二十七年に  
科学技術が進歩し便利になった現代も

元々はこの「鉄と布と型」を原作とした別台本を準備していたが、様々な事情があって本作を演じることになった。

”初”舞台の作品としては難題。重々承知の上。それは演者にとってだけではない。正直、創作過程の中でここまで心が折れそうになった作品はないが、今日に辿り着いた。折れはしなかった。そうさせた二人。その「鉄と布と型」を堪能してください。

演出：藤田ヒロシ

とマネキンは云う  
哀れだわ

愚かだわ

人形  
体  
自然  
嘘

書かれた作品

おかしいね。人間は同じ問いの中にいる

それぞれの初舞台（人生初／社会人初）という1度きりの節目を同じ空間で過ごして下さってありがとうございます。70年前の作品ですが、生きるという事への根源的な作品だと感じ、私たちは常に作品からの問いかけに悩み、考え、助けられてきました。その時間を経た今の私たちは皆さんの目にどのように映りましたか？そして、今日のこの時間を経た皆さんの人生の中のどこかで、何かの助けになれたら幸いです。まだ定まっていない未来で、皆さんとまた繋がるご縁があったら更に嬉しいです。これからの人生、より楽しんで参ります！

ゆと&一色まい

2022年の迷子の遊園地演技レッスンへの参加者の二名(ゆと、一色まい)により誕生した期間限定の演劇ユニット。上演作品に選んだのはレッスン課題台本でもあった「鉄と布と型」。今度はレッスンではなく、みせる為に演劇、演技と向き合う。

まつよい

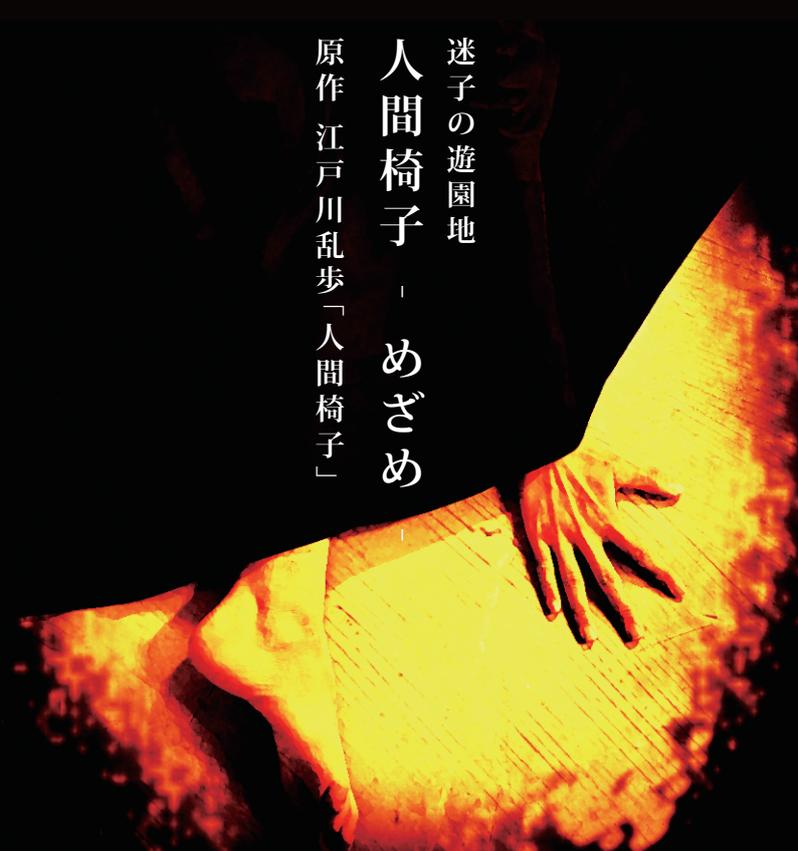
出演  
ゆと 一色まい  
上演台本・演出  
藤田ヒロシ

迷子の遊園地

# 人間椅子

「めざめ」

原作 江戸川乱歩「人間椅子」



アレである。椅子職人の男が自らが作った其れに、自らの肉体を忍ばせ、窃盗をし、そして想像していなかった奇怪な体験をする — 江戸川乱歩の短編小説のアレを舞台化したのである。原作では手紙による告白であるが、それを現在進行形で、自らの肉体をもちい演劇として立体化した。勿論、重く激しく奇怪な——異形の作品である。

太宰治が生き様の憧れなら、江戸川乱歩は創作の憧れである。その憧れに手を付けた。それは新しい冒険の興奮であり、戻れない道に足を踏み入れた興奮である。この舞台を観終わった皆様がどのような心持で客席に座っているのか？それを想像してはニヤニヤする興奮である。絶賛か酷評か。そこに思いを巡らせるよりも、今はまだこの興奮の楽しむ時だ。それでは迷子の遊園地、3年半ぶりの新作をご堪能下さい。

藤田ヒロシ

もしかしたら、あなたに必要な事かもしれない。もしかしたら、あなたが求めていた事かもしれない。どうあれ何であれ、私はここで生きて表すのみ。あなたは安心して私を嫌ってください。安心して私に笑顔に向けてください。どうあれ何であれ、あなたの反応が私の生きた証。どうあれ何であれ、あなたを反応させる事が私のこの世の役割。私が再びわたしに目覚めるこの時に、ここに居てくださってありがとう。

さおり



上演台本・演出・出演  
迷子の遊園地

1997年の旗揚げ。主宰・藤田ヒロシ書き下ろしによるオリジナル作品を中心に公演を続けてきたが、ここ数年は「温故知新」と題して太宰治や江戸川乱歩作品などの朗読ライブを行う。また、ワークショップや演技レッスンをを行い、演劇、演技をその根本から見直す作業を進めている。

## 短編演劇集 温故創新

2023年11月18日(土)19日(日)

あそVIVA!劇場

一般:2800円 20歳未満:1500円

作品No.1 迷子の遊園地「人間椅子 - めざめ -」

作品No.2 演劇ユニット まつよい「鉄と布と型」

主催 迷子の遊園地

### Special Thanks

のりこハウス へっちゃらや カチカチ山 備長焼き鳥たぬき

### 演劇ユニットまつよいの今後

未定。そもそもが

「温故創新」で作品を上演する為の期間限定要素が強く、  
今公演終了後に二人がどのような決断をするのか、お待ち下さい。

### 迷子の遊園地の今後

劇団として新たな力、これまでの力を今一度集結させ

2019年以來の単独公演を目指します。

また「人間椅子 - めざめ -」の藤田ヒロシ ver. も計画中。

短編演劇集 温故創新

WEB アンケートより  
(一部抜粋)

## 鋏と布と型

原作を全く知らなかったのですが、お二人の不思議な世界を堪能しました。私が言うのも烏滸がましいのですが、なんとなく多少荒いところが見えた感じがしましたが、それも味わいとなっていました。

諏訪子らしく、人形らしくあろう・・・みたいな感覚にとらわれている感じがして勿体ないなって感じた部分もありました。・・・が、数日たってみるとそういう部分も人形になりたい諏訪子っていう部分と絡んできているのかも。と思えてきて良い意味で今混乱しています。

終演後にも話を聞いて、若い二人で初めての舞台と聞いて驚いた。若い二人、初めての舞台というにはあまりにも上手くまとまりすぎていたように感じる。不器用でもいいから、もう少しエネルギーを感じたかった。

世界観がとにかく何とも言えないほど面白かった。  
お二人の空気感が独特でした。

## 人間椅子 - めざめ -

圧巻でした。役者さんの身体の使い方、言葉の表現、演出、全て素晴らしかったです。

休憩から急に始まって突きつけられる重たくて不気味な空気！想定外の展開が来てちくしょうやられたと思いながらも、もう独白に引き込まれてしまったのが悔しいくらいでした。

江戸川乱歩はもともと大好きで、小・中学校時代にほとんどの話を図書室で読んでいました。不気味な世界観、日常の中の非日常は迷子の遊園地にピッタリだと改めて実感。藤田さんの演出でもっと江戸川乱歩が見たい！

さおりさんの声、いつもは優しく繊細な、私の大好きな声が怒りや悲しみ苦悩も入り混じったイス職人の独白として歪んで発せられてきて、久々のこの感覚に震えました。